

「いま時の若者は？ あの頃の若者は？」

～互いを知って、理解して“あしたも幸せ”に～

実施報告書

- ◆日時 平成27年11月28日（土） 10:00～12:00
- ◆会場 とよた男女共同参画センター 情報交換室
- ◆参加者 登録団体 14団体58人（うち男女共同参画研修 8団体49人）
一般2人 合計60人
- ◆目的 センター利用登録団体及び広く市民に対し、男女共同参画社会の理解を深める機会とし、団体活動を始め、家庭、地域、職場などで実践することを通し社会全体の男女共同参画の推進を目指す。
- ◆講師 上鶴瀬 孝志 氏（コピーライター、広告企画・制作事務所「イメージ」主宰）
- ◆概要

1 なるほど…時代背景と価値観の変化

（1）あの頃といま、何が、どう違う？

- 出生数 1947年：267.9万人
2014年：100.3万人 → 急速に進む少子化
- 時代 あの頃：超高度経済成長、アナログ文化
いま時：低成長・デフレ脱却課題、SNS社会
→ 価値観にも大きく影響

（2）社会が変われば価値観も変わる

- あの頃の世代 「今日よりも明日、もっと」
- 20～30歳代 「いまが良ければ」 → 異なる価値観の人たちが同じ環境下にいる現実

（3）それでも変わらない意識が…

- 根強い固定的性別役割分担意識（夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである）
内閣府調査の結果では女性の半数近くが、男性の6割近くがそのように思っている。
- 豊田市民の職場での男女の平等観
平成10年から平成20年にかけて男性優遇の割合が低下したが、25年には少し上がっている。リーマンショックのような経済的な影響が表れていることが予想される。

2 はてさて…男女共同参画っていつの頃から？

（1）改めて考える男女共同参画の素

- 1986年 男女雇用機会均等法施行
- 1999年 男女共同参画社会基本法施行 → 人権尊重、責任分担、性別無関係、個性と能力の発揮

（2）人権意識は基本中の基本

- 基本的人権の周知度は8割を超えている。人権意識の高まりと共にDVの存在も明らかになってきた。



- ・インターネットによる人権侵害

「あなたまじめね。」は、子どもたちの中で一番の嫌がらせの言葉

- ・夫婦げんかからDVへの意識変化

(3) 女性の活躍が求められる…なぜ？

- ・一人ひとりの個性や能力をアップできる状態にしていくことで、人生の満足度が出てくれば幸せという発想につながる。
- ・男性中心では激しい変化に柔軟に対応できない。女性の個性や能力を生かさないと持続的な発展はない。
- ・女性や高齢者が社会の役に立つ、居場所があるということにつながる。
- ・労働には有償労働と無償労働があるが、暮らしていくにはどちらも必要で、男女とも仕事と生活のバランスをうまくとること（ワーク・ライフ・バランス）が求められている。アリとキリギリスの話は、キリギリスはアリを音楽で癒すためにコンサートの練習をしていたのであって遊んでいたわけではなかった、冬にキリギリスがアリを尋ねたらアリは過労死していた、というのが今の解釈である。

(4) 男女共同参画は女性のために？

- ・個人の個性と能力にあった働き方は男性にとっても良いことである。男らしさからの解放や固定的性別役割分担意識の解消が重要である。自分らしく、その人らしく。
- ・お祭りでお神輿を担ぐ状態が男女共同参画推進の面でも世代間交流という面でもよい社会である。お神輿を担ぐのは体力もある若い人たち、担ぐ方法やしきたりを伝えるのは高齢者で若い人たちが敬意を持っている、その状況を子どもたちが見ていてお祭りが待ち遠しいものになっていくというようなイメージである。世代間という言葉も幸せという言葉も不要になる。

3 いまこそ…コミュニケーションで“安心”社会へ

(1) 世代間コミュニケーションは難しい…

- ・受け手と送り手で、それぞれ状況が違う中ではそもそもコミュニケーションをとるのは難しい。
- ・携帯電話やインターネットの発達で受ける能力が落ちているので、話が通じない状況であることを知っておくことが大切である。
- ・伝えることと伝わることは異なる。伝わるということは、意思疎通ができて、理解し、納得した上で送り手を信頼するということである。



(2) 「聴く」こそコミュニケーション！

- ・異なることがあるのは当然。まず受け止める、
- ・コミュニケーション能力は「聴く」能力である。それは、他者を受け入れることであり、相手の人権を傷つけないことにつながる。キクミコミュニケーションである。
- ・世代間の中であの頃の若い者は精神的余裕や忍耐力があるので、できるはず。
- ・五つのメリット（思いのままに情報が得られる、人に好かれる、人をその気にさせる、人を育てる、自らをコントロールできる）を理解して

(3) 雑談力で異なる価値観を共有

- ・言葉には用件、実情を伝える事実言葉と人間関係をつくる関係言葉がある。関係言葉は雑談である。雑談の中に、悩み事や関心などが表れる。そのことに企業でも注目し始めている。

- 雑談力診断（かなり当てはまる：2 点、まあ、当てはまる方：1 点、当てはまらない：0 点）
 - ①場の雰囲気を読める。
 - ②自分の気持ちや本音を素直に話せる。
 - ③話のネタや引出しがわりとたくさんある。
 - ④ユーモア、冗談、だじゃれを話す。
 - ⑤人と向き合うのが好き。
 - ⑥臨機応変に対応できる。
 - ⑦異なる考えや価値観を受け入れることができる。
 - ⑧相手の話を聞くのが楽しい。
 - ⑨自分の失敗談を話せる。
 - ⑩話の間、沈黙が気にならない。

合計点 12 点以上は雑談力が相当ある。6 点以下は関係をつくる言葉が必要。

- 相手の話を聴く、相手と関係を築いていこうという認識を持って世代間で行っていくと
いい関係性が生まれる。

4 そうだね…ひとりだけの“幸せ”はないのだから

（1）幸せには、人との結びつきが不可欠

- 人は人（他者）に認められて存する。人と関わりがなくなると落ち込む。

（2）あしたの“幸せ度”を高める人間関係

- 家族生活、友人との接触密度、地域とのつながり お金ではなく、関係性が大切。
- 信頼、共感、協奏の関係性を作ることによって幸せが見えてくる。

（3）“意識改革” “知識開発” で幸せ創造

- グローバリゼーションやデジタルネットワークという不可避なシステムでこれまでの延長線上に明日は描けない今日。
- 激変する環境の中で、価値観、働き方、暮らしが変わるからこそ、変えなきゃ・変わらなきゃ（意識改革と知識開発）。自分の意識を捨てるのではなく、今の社会がどうなっているかを知識として得て、使いこなすこと。
- 一人だけの幸せは絶対ない。人は他人との関係性を求めるため、コミュニケーションが大切であり、それを通して共に幸せになっていく。男らしく、女らしくではなく、その人の個性や能力を開発していくことで、いい豊田市になっていく。

◆質疑応答

無し